



日本体育大学同窓会誌

日體人

NITTAI-JIN 2012. winter

創刊号

CONTENTS

【巻頭座談会】	2
日体大は世界一の体育大学になります	
【特集】同窓会支部活動の新しい流れ	8
「トップアスリートの日体大時代」川澄奈穂美	10
【恩師を訪ねて①】日体大相撲部	12
同窓会活動報告	14
【Information】	
平成25年度入学試験について	19



巻頭座談会

日体大は世界一の体育大学になります

スポーツ立国戦略の策定など、わが国における体育・スポーツをめぐる状況は大きく変化し、その可能性・重要性への認識が一気に高まっている。

そんな中で、120年の歴史と伝統を持ち、常にスポーツ界をリードしてきた日体大の社会的使命とは何か。そして日体大は今後どこへ向かっていくのか。

現在、急ピッチで進んでいるさまざまな改革について、法人・大学・保護者会・同窓会のトップが語り合った。

学校法人日本体育大学 理事長

松浪 健四郎



日本体育大学 学長

谷釜 了正



日本体育大学保護者会 会長

日比野 哲郎



日本体育大学同窓会 会長

碓井 進 (進行)

日体大のこれからを象徴する

新たな2学部の新設

碓井 昨年、「スポーツ振興法」を50年ぶりに全面改正して、スポーツの推進を国の責務とする「スポーツ基本法」が成立しました。またわれわれの時代に6校しかなかったスポーツ系の大学が、現在では100校を超えたと聞いています。大きく変化し、多様化する社会の中で、120年という伝統を誇る日体大はどこに向かおうとしているのか。今日はそのテーマについて、お話を伺ってきたいと思います。

まず初めに、昨年6月に就任以来、先輩を敬う心を教育の中に取り入れたり、世田谷キャンパスに「EOS」の像などの現代彫刻を配してスポーツと文化と芸術の融合を図るなど、すでにその手腕を存分に発揮しておられる松浪理事長に、設置校10校を抱える法人経営者としてどのような経営戦略をお考えなのか、お伺いしたいと思います。

松浪 理事長に就任させていただいて、まず、考えるのは、日体大を魅力的な学園にしなければならないということです。今、お話がありましたように、競争相手となる大学が100を超え、しかもその中には、東の

雄である六大学、西の雄である関関同立も入っている。競争はたいへん厳しい状況下にあります。その競争を勝ち抜くための戦術戦略をしっかりと持たねばなりません。また、これに勝ち抜くことが、8万になろうという卒業生の先輩諸氏の期待に応えることだと思っています。

就任と同時に、私はまず、競争力強化のための3本の柱を立てさせていただきました。国際化、選手強化、そしてワンファミリー化です。

このワンファミリー化というのは、法人が設置する10の学校が互いに手を取り合って、魅力的な学園を目指して協力し合おうというようなことです。今、この3本の柱を中心に、いろいろな形で進めさせていただいていますが、大学をはじめ非常に多くの皆さんの協力があり、うまくいくだろうと私は思っています。

碓井 3本の柱については後ほど伺っていきたいと思います。次に、現在、日体大は大学改革に取り組んでいます。谷釜学長、この改革とはどのようなものでしょうか。

谷釜 日体大は「體育富強之基」という建学の精神の下で、明治24年に日本体育会としてその歴史を刻み始め、26年には日本体育会体操練習所という名称の下に学校経営をスタートさせました。取り入れたのはドイツの体育システムです。

「體育富強之基」は、明治の近代国家づくりに大きな役割を果たし、国の賛同も得て、当時のお金にして1万円を5年間、国から提供されます。そのことによってこの大学は、文部省直轄学校になります。そういう、時代を先取りするような形で本学はスタートし、その時代の寵児のような行き方を選んできたのだと思います。

長谷川正明先生が学長であった平成16年頃から、建学の精神を「體育富強之基」に集約させて、現代的に解釈することでさらなる発展につなげようという気運が生まれてきました。検討を重ね、21年には、【理念】、【ミッション(社会的使命)】、【ヴィジョン(目標)】としてまとめました(次ページ参照)。

ここで社会的使命として掲げている3つの事柄は、冒頭で碓井会長のお話にもありました「スポーツ基本法」の精神とほぼ重なっているんですね。まさに、時代が日体大を呼んでいると感じます。

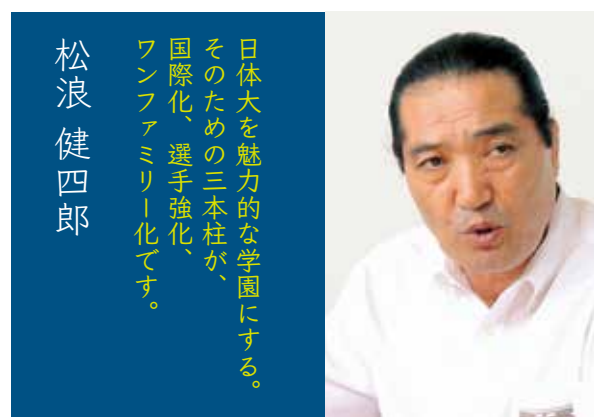
「スポーツ基本法」の前文には、「スポーツは、世界共通の人類の文化である」とあります。この文言を最初に持つてくることで、スポーツ基本法そのものが生き生きとしてきた。この文言を入れるにあたっては、

松浪理事長が強く主張されたと聞いています。期せずしてというか、私たちの大学が目指すものと、スポーツ基本法が目指すものが軌を一にし、さらにはそのスポーツ基本法の実現に大きくあずかってこられた松浪先生を理事長に迎えることができたということで、日体大はまさに、新しい時代に応えられる大学になっていくであろうと実感しています。

大学としての最初の試みは、短期大学の四大化、そして小学校教員の養成です。日体大はこれまでずっと、国民の生まれてから亡くなるまでの健康な体づくりに一貫して責任を持とうとしてきたわけですが、小学校の部分の指導者養成が欠けていたんですね。そこを担う学部を作ろうということで、来年の4月から、「児童スポーツ教育学部」をスタートさせます。

碓井 新学部ということではもう一つ、スポーツ医療に関連する構想もあるようですね。

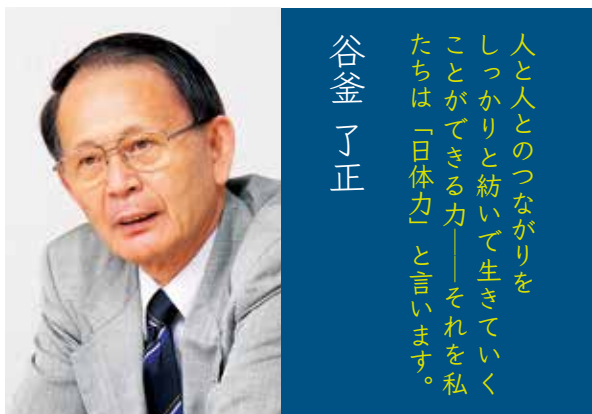
松浪 すでにプロジェクトチームが始動していますが、「スポーツ医療学部」——仮称ですけれども、柔道整復士・救命士の養成など、スポーツ医療を主眼にした学部を作りたいと考えています。スポーツトレーナー、リハビリテーションとか、いろいろ考えなければいけないことがありますし、既に先行されている大学がいくつもありますけれども、本学も遅まきながら、このジャンルに進出します。



われわれは体育大学でありますから、体育学部が中心であることに変わりはありませんが、それを補遺する形で、新しい学部を作らせていただこうと考えています。

碓井 これからの日体大の方向性を象徴するような二つの学部ができるわけですが、保護者会長として日比野さん、いかがでしょうか。

日比野 保護者会としては、大変ありがたく、歓迎しております。やはり保護者の関心の多くは、どうした



谷釜 了正

人と人とのつながりを
しっかりと紡いで生きていく
ことができる力——それを私
たちは「日体力」と言います。

ら体育の教員になれるかということにあります。学生支援センターのキャリア支援部門の統計でも、日体大に入るときには、8割の学生が教員志望です。ところが、体育系大学の増加などもあり、教員への道は誠に厳しい。何年か非常勤を勤めて、人物の評価をしてもらって、それで初めて教員になれるというのが現状です。これまでも都道府県支部総会などで地方に行きますと、小学校の教員免許を待望する声がとても大きかった。ですからこの新しい学部の新設は本当にうれしいです。

建学の精神

たい いく ふ きょう の もとい
体 育 富 強 之 基

理念

真に豊かな国家・社会を実現するためには、体育・スポーツの普及・発展を積極的に推進し、健全な心身を兼ね備えた全人格的な人間を数多く育成することが肝要である。

ミッション（社会的使命）

1. スポーツ科学全般の先駆的研究およびその実践を通じて、人間の心身が有する可能性を総合的に究明し、国民の体力向上、ひいては国際的な競技力向上に貢献する。
2. 我が国のスポーツ文化の深化・発展に努めるとともに、オリンピック・ムーブメントを主導的に推進し、スポーツの「力」を基軸に、国際平和の実現に寄与する。
3. トップアスリートはもとより、地域社会において指導者やリーダーとして活躍しうる人材を輩出し、健康で豊かな生涯スポーツ社会を構築するための原動力となる。

ヴィジョン（目標）

日本体育大学は、独自の教育・研究プログラムを創造的に展開し、我が国の体育・スポーツ界ならびに来るべき知識基盤社会をリードする大学を目指す。

また同時に、心身ともに逞しく、明朗快活で、自らが選択した職種の現場において強い即戦力として活躍できる人材の育成を図る。

実践と研究の両面から

「強い日体」の実現をサポート

碓井 日体大が、体育系の数ある大学の中でどのような特色を出していくかという取り組みは続いていくわけですが、ではその中でどのような人材を育成していこうと考えておられますか。

谷釜 体育・スポーツに関連する仕事をこなし得る人材というだけでなく、新しい方向性として、どんな職種に携わっても十分に力が発揮できる人材を育成したいと思っています。体育系の学生であればその、人と人とのつながりをしっかりと紡いで生きていくことができる力。私たちはそれを「日体力」と言いますが、集団の中で生きていく力を持った人材ですね。

あともう一つ、学生たちが食堂できちっと食事を取ること、自分の栄養管理、自分が行うスポーツにふさわしい栄養の取り方ができるような仕掛けをしたい。スポーツ栄養学なども導入し、管理栄養士の指導の下で、食堂の改善にも取り組みます。これは、保護者の皆様のご理解・ご協力が必要ですから、今、日比野会長にお願いし、少しずつ動いてきているところです。

日比野 子どもたちの健康を守り、さらには競技能力をも伸ばす食育については、保護者会としても全面的にバックアップしたいと思っています。

碓井 人材育成でもう一つ、やはり欠かすことができないのが選手強化だと思います。これは松浪理事長の言われる、日体大を魅力的な学園にするための3つの戦略の一つでもありますね。

松浪 本学には大変な歴史と伝統がありますし、スポーツ界をリードしてきたという自負もありますけれども、やはり、強くないと、若い人たちは憧れない。強い選手を育てねばなりません。ただ、選手の強化というのは非常に難しく、それぞれの競技の特性を見極めて、戦略や策を講じていかなければならないと思っています。

そしてまた、強いということは、新しい技術の開発ということにもつながるわけです。それは本学の大切な仕事であり、その研究にも力を注がねばなりません。

碓井 選手強化のソフト面ですね。学術研究によるバックアップ。その辺については、谷釜学長、いかがでしょうか。

谷釜 今回のロンドンオリンピックで、日本選手がとてもいい成績をあげた理由の一つは、選手に対するマ

ルチサポートがあったからだと言われています。国が資金的な援助をして、この分野の学問を総動員する形で、競技者に向き合うような体勢ができていた。

今回は筑波大学を中心に編成されたと聞いていますが、本学にももちろん、マルチサポートとして科学的な研究を支え得る優秀な先生方がたくさんいます。

しかし、われわれの学問の大前提は、「実践の学」にあります。現場に立って、その日その日の選手のコンディショニングもきっちり押さえて、つぶさに指導していく、これは科学的な裏づけがなければできない話ではあるんですが、まずは現場の問題からすくい上げて、その後科学的な光を当てるとのことだと思うんですね。科学的な研究と現場の間をつなぐ役割を担う研究者が必要であり、私は本学の先生がその軸になってほしいと考えています。

碓井 教員以外の、福祉とか、健康の施設とか、そういう方向にも今、学生が足を向けていると思うんですが、その辺は、どうでしょう、ある程度そういう方向を目指した学生も指導していくということでしょうか？

谷釜 実は本学で、早い段階に教育界以外の分野を目指した学生たちの就職率は、ほぼ100%なんです。スポーツの大学でなければならない人材育成ができていますからだと思います。それでも、先生になりたいという夢を捨てきれない学生たちが多くいて、その学生たちにどういうメッセージを出せるかということが大事です。そのメッセージを適切に出せるようになっていけば、日体大は教育の分野でも、それ以外の分野でも、本当に就職率の高い大学になっていくはずですよ。

碓井 3本柱の一つ、国際化についてはどういう方向で動かれますか。派遣するのと迎え入れるのと、二通りありますが。

松浪 迎える方では、今ある留学生制度の規定を見直し、スポーツ技術の習得のために世界中から学生たちが本学にやって来るようにしたいと考えていて、その環境整備を急いでいます。

学生および卒業生の外国への派遣については、今、JICA（国際協力機構）と協議を続けており、連携して、いろいろな方法で学生たちを海外に派遣し、さまざまな経験を積ませたいと思っています。

志望者増の流れに甘んじることなく 優秀な人材への門戸を広げていく

碓井 これまで日体大には、全国から優秀な学生が集

まり、彼らが地方に帰って優秀な指導者になるという形がありました。それが近年、関東地区の学生の割合が非常に大きくなってしまった。地方から優秀な学生を集めるということについて、どのように考えておられますか。

松浪 少子化が進み、景気の低迷もあって、遠くの大学に子どもを送ることがなかなか難しくなっているということがあります。また、先ほども話に出ましたが、体育系の学部・学科を持つ大学が増加して、遠くに行く必要がなくなっているという面もある。本学の魅力、存在感が薄れているということもあるかもしれません。優秀な学生に全国から来てもらわなければいけないというのは当然のことで、入試改革などそのための努力もしていますが、これは本学だけの傾向ではなく、やはり、人口が首都圏に集中しているということもあって、他大学も同じ悩みを抱えていると認識しています。

碓井 谷釜学長、入試改革はどのような状況にあるのでしょうか。

谷釜 各地から満遍なく優秀な人材を確保しようということで、改善を進めてきました。

実技の試験を課さない「一般入試のB方式」は平成24年度から始めたばかりですが、これが意外と、全国的に人を集め得ることが分かりました。それから、同窓会の皆さま方のご協力を期待しつつ、全国にある同窓会のブロックごとにAO入試を行うという試みもしています。



碓井 現在、たとえば日体荏原、柏日体、浜松日体などの高校で非常に優秀な人材が育成されていると聞きます。競技でも優秀、学力でも優秀。ワンファミリー化の流れの中で、いかに日体大とのつながりを深め、彼らを入学させていくかということも、一つの課題ではないかと思うのですが。

松浪 そうですね、ワンファミリーとしてお互い関わ

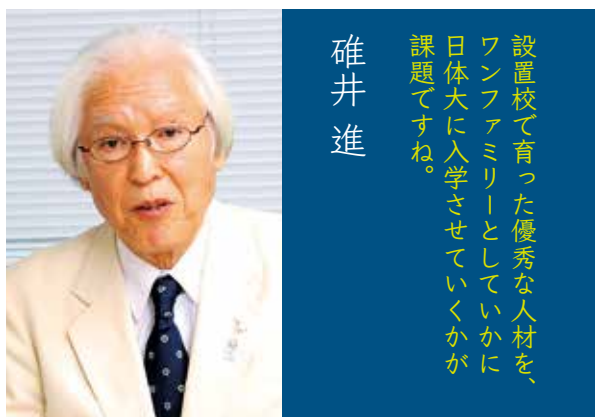
りを持っているわけですが、その関わりをどう深めていくかということでしょうね。大学の施設の共有化なども有効かもしれません。中学、高校、大学という一貫教育も可能になってきましたし、本学の建学の精神を十分に理解して、それで日体大の魂を持った者が社会に出ていく、そういう形にしたいですね。

それと、日体大に関わりのある人には皆、「スポーツ好き」というDNAがある。だから子どもも本学に入りたいという方が多いわけです。ちなみに私の子供もそうでしたし、学長もそうですね。このDNAがある限り、親が勧めなくても、子どもたちは同じ道を歩もうとするんです。ですから、もう、早い段階で、たとえば中学校で、高校で、本学の設置校に入れていただければありがたい。ワンファミリーというのは、卒業生も含めたファミリーというふうに理解していただければと思います。愛校心に満ちた先輩関係各位に対して門戸を広げるということも、ワンファミリー化の強化につながっていると思います。

碓井 確かに、同窓の自分の子どもを日体大に入れたいという思いは強いですね。その辺を踏まえてよろしくお願ひしたいと思います。

日比野 子どもたちを目覚めさせるためにも、「強い日体」のアピールというのは必要でしょうね。

碓井 メディアに取り上げてもらい、日体大への社会的認知を高めてもらうことも大切です。その辺は、理事長が手掛けられていることだと思うんですが、この1年、本学の露出は確実に増えていますね。



松浪 長寿社会になって、国民一人ひとりが健康について本気で考える時代になったわけです。われわれは健康を維持増進させるための学問または実技を専門的にやり続けてきたわけですから、注目されて当然の位置にいる。少子化が進む中で、本学を志望する人たちが増えているのは当然のことだと私は思っています。

無論、体育系の大学はどこも増えているので、喜んでばかりはいられません。いろいろ策を講じて質の向上を図り、この分野でのトップランナーの位置を守っていききたいと思います。

ロンドンオリンピックを通して 学生たちに考えてもらいたいこと

碓井 8月12日、過去最高となる38個のメダルを獲得してロンドンオリンピックが幕を閉じました。日体大関係者では、現役学生・大学院生7名を含む23名が出場。体操の内村航平選手、なでしこジャパンの丸山桂里奈、近賀ゆかり、川澄奈穂美選手、水泳の北島康介選手など8名がメダルを獲得、11名が入賞するなど目覚ましい活躍を見せてくれました。

一方、国内では、世田谷キャンパスの講堂を一般にも開放して、17日間に及ぶ前代未聞のパブリックビューイング(PV)を実施。これは連日テレビ・新聞などでも報道されました。そのきっかけを作ったのは松浪理事長と聞いていますが。

松浪 学長が常々、地域社会との関わりを深く持たなければいけないと提唱されていて、その一環としての試みでした。われわれもチラシを作って、近隣2万世帯に配布するなど頑張りましたし、メディアにもかなり取り上げられましたね。何よりありがたかったのは、本学関係者が皆その意図を理解し、協力してくれたことです。一致団結して事に当たる大学の姿が、社会の皆さんに伝わったなという喜びがありました。

碓井 学長は現地に行っておられましたね。

谷釜 はい。体操と水泳競技の応援に行ってきました。内村選手や北島選手らの卒業生はもちろん、現役の学生や大学院生の立派な活躍をしっかりと見届けてきました。あと、競技会場からiPadとやらで世田谷キャンパスにライブ情報を送れという無謀な指令も、なんとかクリアすることができました(笑)。

松浪 オリンピックに出た選手、活躍された選手にはもちろん敬意を表しますが、本学6,000名の学生全員がオリンピック選手になれるわけではない。それでも、自分の隣にいる友達が出たり、先輩が出たりして大きな刺激を受けることで、自分は大したアスリートではないけれど、指導者として頑張ろうとか、スポーツの普及のために頑張ろうとかね。たとえば中国で野球を最初に教えたのも、レスリングを教えたのも本学の卒業生であるというように、いろんな形、違ったステージで、学生たちが自分の生かし方、活躍の仕方を考え

る機会になってくれればいいなと思っています。

碓井 そうですね。われわれの頃も、駅伝選手といえ
ば120名くらいいて、実際に出場できるのはその1割。
あとの人はただ、深沢のグラウンドをぐるぐるぐる
る回って学生時代を過ごして、それが教員になって、
高校で全国制覇しているのがたくさんいますからね。

さて、日体大の進む道筋がかなり見えてきたところ
で、法人、大学からのまとめの一言をお願いいたします。

松浪 われわれの大学は、国の名を負う大学でありま
すから、学生たちには日本一になれ、世界一になれと
いうことを日頃から言っているわけですね。ならば、
われわれ大学にいる者も、この大学を日本一、世界一
にしなければいけない。

そのために、どういうふうに関わり合うのか、知恵
を出し合うのか、本気にならなきゃだめだと思うん
です。われわれは世界一の体育大学を目指すという決意
で、一丸となって進んでいかなければならない。既に
それだけの財産といえますか、いろいろなものを本学は
持ち合わせていますから、それをこれからまとめて発
信していくということに尽きると考えています。

谷釜 本学は競技スポーツ界で貢献してきた大学でも
ありますから、その伝統は守っていかねばなりませ
ん。一方で、先ほど少し話に出ましたが、地域社会と
連携していく一つの可能性として、「総合型地域スポー
ツクラブ」ということを考えています。今現在、体操
教室やバドミントン教室、柔道教室などがありますが、
そういうものを組織的に形づけて、社会に開かれた「総
合型地域スポーツクラブ」を二つのキャンパスに設け
る。それを充実させていくことで、日体大の真価をさ
らに発揮していけるのではないかと考えています。

碓井 それでは最後に、同窓会へのご意見、ご要望な
どありましたらお聞かせください。

松浪 今年の入学者へのアンケートによると、入学の
動機として一番多いのは、「先輩に勧められて」でし
た。つまり、同窓の皆さん方が受験生を集めてくれた
といっても過言ではない。そういう意味で、同窓生を
今まで以上に大切にしていかなければならないとわれ
われは思っています。そしてそのための策もいろい
ろと講じているところです。

谷釜 まさにその通りで、同窓会の力をこれからも
ますます必要としているわけですから、どのように連携
をとっていくかということを課題に、またご協力をお
願いすることになるかと思います。

日比野 保護者会も同窓会も、直接的に間接的に学生
をバックアップするという目的は同じだと思っていま



す。ですから、各県においてもそうですけれども、本
部の同窓会と保護者会の連携をさらに密にして、共に
学生をバックアップしていくをお願いしたいと思
います。

碓井 そうですね、大学を中心に、各支部においても、
保護者会と同窓会、県人会が一本になっていかないと、
さらに発展することは難しいと思います。われわれも
精いっぱい努力していきたいと思っておりますので、
皆さま、ひとつよろしくをお願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

(2012年8月21日、日本体育大学東京・世田谷キャンパス 法人第一会議室にて)

座談会を終えて

日体大の長い歴史の中でも最大の改革が、今、進んでい
ます。法人と大学が手を携えて、日体大の明日のために動
き始めました。

選手強化に法人が本腰を入れて取り組む、JICAとの連携
で国際化を進める、教授陣を広くさまざまなジャンルから
求めていくなど、既にいくつものアクションがありますが、
改革の最大のチャレンジは、やはり3学部構想ではないで
しょうか。今までの体育学部に加えて、小学校の教員免許
が取れる「児童スポーツ教育学部」が来年スタートします。
日体大を出たら小学校の先生になれるというのは、大きな
メリットです。続いて、スポーツ医療、福祉も含めて、こ
れからの社会に大いに役立っていくと思われる「スポーツ
医療学部」(仮)が加わります。おそらく2、3年後に3学
部がそろそろ頃には——もしかするとさらに新しい学部の構
想が始まっているかもしれませんが——日体大は大きく変
わっているはずです。

この座談会の企画は、今われわれの大学に起きている変
化を同窓の皆さまにお伝えしたいとの思いから始まりまし
た。大学が変わるなら、同窓会も変わらねばなりません。
希薄化が危惧されている母校愛を大きくよみがえらせ、奮
い立たせて、法人と大学が不退転の覚悟で始めた改革を、
保護者会と共に支えていきたいと思います。

皆さまのご理解とご協力をお願いする次第です。

(碓井 進)

「再生・復活、日体の絆」

——職域や年代を超えて絆を深め、同窓会活性化を図る——

福岡県同窓会(福桜会)会長

本田 和人

福岡県同窓会は、北九州市を中心とした北部、福岡市中心の中部、久留米市中心の南部、筑豊地区の4地区に分かれています。

以前から、各地区で総会行事が行われていますが、近年、教職員退職者の増加、高齢化、若年会員の減少による参加者の減少と会費収入の減少などの課題が出てきました。

これらの課題はすべての支部に少なからず共通するものと思われますが、県同窓会では、その打開に全力で取り組むこととし、3年前から「再生」同窓意識・絆、「復活」日体魂・母校愛」をスローガンに掲げて、さまざまな活動を行っています。

1 同窓会の在り方と意識改革

- ①県同窓会の名称を「福桜会」とする。
- ②4地区総会とは別に県全体の総会行事を新たに実施。幹事は4地区輪番制とする。
 - 「数は力なり」「心をひとつに」の考えで、県・各地区総会の目標参加者数を設定。
- 【目標】県総会：250名、
北部・中部地区総会：各100名、
南部地区総会：50名、筑豊地区総会：70名
※現在の達成状況は8割
- ③研修の充実（日体大の教授等を招聘する）。
- ④教職員主体の同窓会からの脱却、スリーピング会員の掘り起こしを図る。
 - 総会などでの呼称「先生・オイ・おまえ」から恩師を除いて「先輩・君・さん」への周知徹底。

2 企業人会・女子部会の活性化のため活動費の予算化

3 絆再生委員会の設置

- ①各地区から若手同窓を選出し、同窓会活動の活性化に向けて積極的に意見を述べてもらう。

- ②広報担当として、同窓会活動や同窓生の情報の収集・発信を行う。

4 「グループ體窓」の一層の充実と保護者会との連携

- ①教員採用試験を受験する4年生及び同窓講師の試験に向けた「教職教養・専門教科・論文・面接・実技」対策勉強会を年2回（終日）実施する。
- ②保護者会主催、在学生「県人会」の研修会・懇親会参加（毎年11月本学にて）。
- ③保護者会県総会・研修会・懇親会に県・地区役員の参加。
 - 学生支援に向けて情報提供。

5 「桜友会」の充実

（小・中・高管理職、県・市教育委員会指導主事など約100名）

- ①新規採用者・講師及び管理職任用などの情報交換と活用。
 - ②懇親会・ゴルフコンペ。
- まだまだ十分ではありませんが、「質実剛健」「団結和協」の精神を堅持し、愛する母校の発展と同窓会活性化のために、職域や年代を超えて絆を深め、より一層同窓会の充実を図っていききたいと思います。我らが『心のふるさと、日体大』の更なる飛翔を祈念いたします。



平成23年度県総会後の懇親会。職域・年代を超えて約200名が参加し、大いに盛り上がりました

母校愛の希薄化、若手会員の減少など、同窓会各支部が共通して抱える課題を解決するために、今、各地でさまざまな取り組みが始まっている。キーワードは、「参加しやすい同窓会」、そして「日体ファミリー」。

「日体ファミリー」による被災地支援

——「三陸の子どもたちにTシャツを贈ろう」プロジェクト——

秋田県同窓会会長
高田 和男

東日本大震災発生翌々日、ついに学生時からの友人の生存を確認。「食べ物が無い」と。早速、食糧や衣類、生活用品を車に積み込むが、往復できるガソリンが無い。そして7日後、余震情報が飛び交う中をひた走る。

被災地で、子どもたちのために 何ができるかを考える

「何が起きた？」見慣れた町並みは火災にも見舞われた。表現する言葉がない。時折、がれきの中にたたずむ憔悴きった人を見掛ける。「子どもたちはどこに行った」「帰る家はあったのか」「『お帰り』と迎える人はいるのか」。

子どもたちのために、何ができるか。

以降、大学の藤本英男先生や後輩の群馬大学柳川益美先生と合流し、避難者であふれる小学校で、鼻水をすすりながら大量の焼きそばを作り、松本慎吾先生が引率する学生たちのがれき撤去作業にも同行した。

この時期、三陸は、まだまだ寒い。防寒衣類は大量に持参したが、数カ月後には、ここにも夏は来る。「そうだ。子どもたちにTシャツを贈るのはどうだろう」。

同窓、保護者会から 続々と支援品が

秋田に帰り、保護者会にも協力を要請し、「三陸の子どもたちにTシャツを贈ろう」プロジェクトを立ち

上げる。目標3,000枚。平素、疎遠の先輩からも宅配便が届く。同封の激励の言葉がうれしい。わが家が、支援品で足の踏み場もない。人手は欲しいが、結局、2人で被災地に向かう。座席は支援品で埋めた。

予告も功を奏し、仮設住宅の方を中心に、被災された多くの方々が待っていた。同窓会と保護者会の旗をつるし、会場を作る。支援品の配布には、何の制限もない。セレモニーもやめた。そんなこともあろうかと、シャツの間に手紙を挟んでおいた。

後日、子どもたちや保護者から、お礼の手紙が届いた。この事業が、子どもたちの心を少しでも癒すことができたかどうかは分からない。ただ炎天下に、確かに手渡したTシャツで遊ぶ子どもたちを大勢見かけた。

固い絆に結ばれた 日体ファミリーを育てていく

平成2年、本会は保護者会を設立、同時に「日体秋田の会」を発足させた。以来、「いかに学生を支援するか」をテーマとして、同窓生と保護者の研修、親睦を目的とする事業を継続してきたが、今回の被災地支援においても、その「日体ファミリー」が遺憾なく力を発揮した。

秋田県同窓会が目指すもの、それは「広げよう、深めよう、日体の絆」である。



仮設住宅地に同窓会と保護者会の旗をつるして会場を設置。たくさんの方々に来ていただきました（岩手県山田町）



松本慎吾先生が引率する日体大レスリング部によるがれき撤去作業

トップアスリートの 日体大時代

目標に向かってひた走る。
川澄奈穂美はブレない。

日本体育大学女子サッカー部監督 矢野晴之介

ロンドン五輪では、なでしこJAPAN不動のレギュラーとして中盤左サイドを支え続けた川澄選手。決勝戦で敗れたときにも涙を見せなかったその涼やかな瞳が、ブレることなく見つめ続けてきたものとは何か。
川澄選手の日体大での最後の1年を見守った矢野監督に、お話を伺った。



矢野 晴之介

昭和52年1月26日生まれ、静岡県出身。日本体育大学卒業後、同大学院でスポーツ哲学を専攻。在学中にドイツスポーツ大学ケルンに留学する。筑波大学大学院を修了し、日体大助手を経て平成20年より現職。著書に「自宅のできる『体幹トレ』ドリル」（自由国民社）など。



上／ロンドン五輪初戦のカナダ戦で、川澄選手はなでしこ快進撃の口火を切る初ゴールを決めた（写真：アフロ） 右／第15回インカレ出場時の川澄選手（3年生、後列右から2人目）。論理的なアドバイスで、部員からの信頼も厚かったという



日本体育大学横浜・健志台キャンパスのサッカー場。9月に入って、周囲をこんもりと取り囲む木々は心なし色づきはじめているが、午後1時のグラウンドには強烈な日差しが容赦なく降り注いでいる。

4チームが入れ替わりつつ進む女子サッカー部の練習。指示を飛ばしているのは矢野晴之介監督だ。2012年のインカレ（全日本大学女子サッカー選手権大会）で日体大を14回目となる優勝に導き、インカレ優勝最年少監督となった。

大けがにも決してひるまず あっけらかんとリハビリに励む

平成20年4月に矢野監督が就任したとき、川澄奈穂美選手は4年生で、すでに左膝の前十字靭帯断裂という大けがを負っていた。

「初めて日本代表に選ばれたその日に、けがをしたんです。川澄にとってはすごく大事な時期——4年間の集大成としてインカレで優勝したいし、日本代表でも活躍したいというタイミングで、復帰までに8カ月はかかる大けがをしてしまった。それでも川澄は落ち込まず、ひるむことなく、あっけらかんとリハビリに取り組んでいました」

その頃のことを川澄選手に聞くと、「私のサッカー人生にとってはほんのわずかな時間。周りに騒がれるほどの大ごとではなかった」という答えが返ってきたそうだ。

川澄選手は12月に戦列復帰。矢野監督はようやく川澄選手のプレーを見ることができた。

「やはりスピードが特徴ですね。足が速い。速いだけじゃなくてテク

ニックもあるので、すばしっこい、捕まえづらいって感じてした。加えて体幹トレーニングの継続が生んだ身体の強さ——小さいのに大きい選手と当たってもなかなか倒れない、そして抜群のスタミナ。ああ、すごくいい選手なんだなと分かりましたけれど、でも正直、日本代表に入っでここまで活躍する選手とは、思っでいませんでした」

しかし、その後の快進撃は誰もが知るとおり。卒業後はINAC神戸レオネッサに入団、2年後にはレギュラーに定着し、アジアカップで初なのでしこJAPAN入り。2011年のFIFA女子ワールドカップではベンチからのスタートながら、準決勝で2ゴール、決勝戦にもフル出場して金メダルに貢献。ロンドン五輪ではもはや不動のレギュラーとして存在感を示した。今や日本を代表するトッププレーヤーである。

ブレのなさが チャンスを引き寄せる

「彼女が常人と違うのは、決してブレないこと。そこは本当にすごい。そして、そのブレのなさでチャンスを引き寄せていると感じます。

彼女はズーっと、澤(穂希)選手に近づき、超えることを目標にしてきました。そのために自分は何をやればいいのかをズーっと考え、ただただ実践してきたんです。

クラブを決めるときも、オファーはいろいろあったんですが、自分がサッカーをする上で一番いい条件のところを選び、そこで全力を尽くすのみと言ってINACを選びました。その頃のINACは澤や大野(忍)もいなければ、今の監督もいなければ、強くもなかった。でも川澄は迷うことなくそこへ行って、最初はレギュラーでもないんだけど、ズーっとやり続けて、澤たちが来て、日本代

表に選ばれたけれど出たり出なかったり、でもやり続けてやり続けて今に至った、そういう選手なんです」

そこまで冷静に、常に自分を客観視できるというのはすごいですね。

「そう、だから試合でも自分の役割、自分に何が求められているかを常に自覚してプレーしています。シュートにも迷いが無い。目標を定めてブレない人間は強く、軽やかです」

これからの川澄選手に、何か声を掛けるとしたら？

「自分の思うようにやれ、それだけです。彼女が進む道が、彼女の正解な道だと思っていますから」

優秀な選手を育て トップリーグに送り出していく

ロンドン五輪で見事銀メダルを獲得したなでしこJAPANには、川澄選手の他に丸山桂里奈(H17卒)、近賀ゆかり(H19卒)という2人の日体大卒業生がいた。矢野監督は近賀選手とクロスすることはなかったが、丸山選手はアメリカ移籍前の数カ月間、健志台に来て一緒に練習をしたという。

「丸山は天才肌というか、ゴール前の嗅覚がいい。また戦闘モードに入ると目つきとか気迫がガッツと変わって狼のようになります。根っからのフォワードですね。

ロンドン五輪は彼女にとっては不完全燃焼で、悔しくてしょうがなかったと思います。焦らずにクラブで成績を残し、次にまた選ばれるようゆっくり頑張ってもらいたいと思います」

「日体FC」として3年前から参戦しているチャレンジリーグ(なでしこリーグの2部)では、9月末現在3位。なでしこへの昇格を目指しているのでしょうか。

「チャレンジリーグの優勝は目指していますが、準加盟登録をしてい

ないので優勝しても昇格はしません。予算がかかるし、戦力的にもやはり選手が卒業して入れ替わっていく中で維持するのは大変ですから。

私たちはあくまでも、なでしこリーグに人を送る側。川澄らに続く優秀な選手をどんどん送り出していきたいと思っています。もちろん、大学日本一は毎年狙っていきますよ」

最後に、今、汗を流しながらグラウンドを駆け回っているサッカー部員たちへのメッセージを。

「部員は今、なでしこ人気もあって約80名います。練習はきついし、登録メンバー25名に選ばなければ1年間試合にも出れない。出なければ残念だし、悔しい。でもなでここに来てサッカーをするんだといえ、やっぱり、仲間と一緒にやることの尊さであつたり、今までできなかったことができるようになったり、いろんな人といろんなコミュニケーションのとり方を学んだりということがあからだと思ふんです。それは、幸せに人生を生きていくための力になります。サッカーがうまくなりたいという気持ちを通して、彼女たちにより幸せになつてほしいというのが僕の願ひです」



男子サッカー部のコーチも兼任する矢野監督、この日は朝の10時から午後2時まで炎天下のコートに立ちっぱなしだった。「鍛えられてます、日体大に。でも大好きなサッカーなんです」



恩師を訪ねて

1 日体大相撲部

皆で力を合わせ、相撲を後の世に継承していく

恩師 塔尾 武夫先生(元日本体育大学学長・相撲部監督) 齋藤 一雄先生(相撲部監督)

訪れたのは角界に入った弟子たち

押尾川親方(元小結 垣添 H13卒) 嘉風(H15卒) 妙義龍(H21卒) 千代大龍(H23卒)

今の自分があるのは、あの先生との出会いがあったから——そんなかけがえのない恩師を弟子たちが訪ねる。連載第1回は日本体育大学相撲部。久しぶりに訪れた相撲場で、恩師や部員たちを前に、厳しい角界に生きる弟子4人の頬が思わずゆるむ。

日体大相撲部は、齋藤一雄監督の下、過去5年間で全国学生相撲選手権大会団体優勝3回、東日本学生相撲選手権大会団体優勝3回という勢



いの中にある。

厳しい残暑が続く8月29日 午前11時、東京・世田

谷キャンパスの真新しい相撲場は、ぶつかり稽古の真最中だった。3面の土俵を有する相撲場は全国的にも有数の規模である。「ぴんと張り詰めた」という言葉そのものの緊張感の中、学生たちの肉体がぶつかる音と、齋藤先生の激しい声が響き渡

る。その隣で塔尾武夫先生は腕を組み、背筋を伸ばし、微動だにしない。

塔尾先生のアドバイスに相撲の奥深さを知る

きれいに掃き清められた午後の相撲場に、相撲部出身の親方・力士4人が顔をそろえた。押尾川親方と嘉風関にとって、塔尾先生は故郷大分県の大先輩に当たる。高校時代の恩師が塔尾先生の教え子で、共に体育の教師を目指して日体大に進学した。

妙義龍関は高校の同級生でライバルの豪栄道関が角界に入門するも自らはやはり教員志望で、日体大を選んだ。千代大龍関は高校3年の時、「学生横綱にさせてやる」という齋藤監督の力強い勧誘に従い、迷わず日体大に進んだという(そして4年後、学生横綱になった)。

4人の在籍時、塔尾先生はすでに日体大の学長、理事長を歴任されていて、それほど相撲場に顔を出され

ることはなかった。先生が現れると相撲場に緊張が走り、たまに声を掛けてもらう先生の一言には重みがあった。

「塔尾先生に声を掛けていただくだけでうれしくて。アドバイスの一言一言がずしっと胸に響きました」と押尾川親方は言う。

妙義龍関は、3年の時に先生の地元で開かれた全国大学相撲宇佐大会で、日体大史上初の団体優勝を飾る。

「試合会場で先生を胴上げしましたね。すごく覚えています」

「おお、そうだったなあ」と塔尾先生が目を細められる。

触れ合う時間はそう多くなくとも、相撲の奥深さに気づかせてくれるようなアドバイスを、皆それぞれに塔尾先生からもらったという。

学生みたいに喜び、悔しがる齋藤先生

一方、齋藤先生は、押尾川親方の



時代にはコーチで、まだ回しをつけて相撲を取っておられた。

「たくさん胸を貸していただきました。この4月から自分も若い力士を指導する立場になり、教えることの難しさを実感しています」と親方。

嘉風関は「4年でけがをした時に、『自分がいいと思うだけやれ、おまえには俺はもう言わないから』と信頼して任せてくれた。それに応えなくてはと強く思いました」と言う。

齋藤先生の指導の核心は「やらされる稽古」ではなく、自主性を重んじた「やる稽古」にある。試合でいかに力を出せるかは、この「やる稽古」ができているかどうかにかかっていると齋藤先生は考えている。

「稽古中はめっちゃめっちゃ厳しい。でも、試合に勝ったときはもう、学生みたいに一緒に喜んで、悔しい時は、先生も悔しいと俺らに言うんです」と妙義龍関。そして千代大龍関



は、「常に感謝の気持ちを忘れず、一日一日を大切にするように」という

先生の教えずつと胸に抱いてきた。

実はこの教えは齋藤先生自身が、大学院時代の指導教官だった塔尾先生から教わったことでもある。

感謝の気持ちを忘れず 一步一步上を目指して

角界で奮闘する4人の弟子たちに注ぐ両先生のまなざしは優しい。

「押尾川親方には、何よりご苦労さまでしたと言いたいですね。学生最後の大会でけがをして苦労したけれど、今後は後進の指導をしっかりやってほしい。嘉風には、もう一咲かせようと言いたい。まだまだ頑張っ、三役を狙ってほしい」と齋藤先生。秋場所で初の



左から、妙義龍関、押尾川親方、塔尾先生、嘉風関、千代大龍関。稽古の終わりに、学生たちは4つの教えを唱和する。「人格の完成を目指し、相撲道に精進せよ」「礼節を重んじよ」「学生の本分を忘れるな」「整理整頓」。これは50年近く前に塔尾先生が稽古場に掲げられたものだ

関脇となり、相撲ファンの熱い期待を集める妙義龍関には、

「膝のけがから、よくここまで立ち直った。潜在能力としては横綱を狙える逸材です。けがに気をつけて、一步一步上を目指してほしい。千代大龍も潜在能力は高いです。相撲を取れることへの感謝の気持ちをもってしっかりとやっていけば、結果が出せると思います」

「皆頑張ってくれてね」と塔尾先生。「これまでプロに入る子はいなかったけれども、垣添（押尾川親方）が入って、後に皆が続いて。今も力のある子がいっぱいいます。」

指導者というのは、背中で教育しなければいけません。口で偉そうなことを言っても、ちゃらんぼらんなことをやっていては誰もついてこない。この学生たちも、高校の日体大OBの先生がいい指導をしてくれて、ああいう先生になりたい、と思ううちに来てくれたケースが多いんです。各地で頑張られている日体大OBの先生方には、どれだけ感謝してもしきれません」

確かに、優秀な人材が集まってくる流れができて、日体大は本当に強くなった。齋藤先生は学生選手権10連覇も夢ではないと言われる。

「もちろん、それはあくまで目標です。とにかく1年1年、一番いい

成績を残すことに精進していきたい。また学生たちには、しっかりと結果を



残して、次の人たちにバトンを引き継いでもらいたい。大学を出て角界に入る者もいれば、各地で指導者となる者もいる。皆がそれぞれの場所で役割を果たしながら、共に相撲というものを後の世に継承していきたいと思います」

（押尾川親方は取材後の10月16日、年寄「雷」に名跡変更され、雷親方となりました。）



塔尾 武夫（左）

昭和9年3月27日生まれ、大分県出身。相撲八段。昭和33年日本体育大学卒業後、助手・講師・助教授・教授を経て平成7年4月副学長、10年4月より13年3月まで学長、16年4月に名誉教授となる。平成15年4月から20年6月まで同窓会会長。平成20年6月から23年6月まで学校法人日本体育会（現学校法人日本体育大学）理事長。日本体育学会名誉会員。日本学生相撲連盟・東日本学生相撲連盟・日本武道学会顧問。（財）日本相撲協会では平成19年10月より再発防止検討委員会外部有識者委員、引き続き生活指導特別委員会委員を22年2月まで務めた。24年4月春の叙勲で瑞宝中級章受章。

齋藤 一雄（右）

昭和43年1月8日生まれ、東京都出身。相撲七段。昭和61年日本体育大学入学。63年アマチュア横綱、平成元年全国学生相撲選手権大会団体優勝。同大学院修了後、文部省在外派遣研修員としてオーストラリア留学、弘前大学医学部を経て平成15年日体大相撲部監督就任。17年同大専任講師、20年同大准教授。医学博士。

平成24年度全国代表者会議(代議員会)報告

平成24年度は6月9～10日、1泊2日の日程で全国代表者会議・代議員会・学長招待懇親会が行われました。初日はあいにくの雨の中、午前中の世田谷キャンパス竣工記念式典終了後から開始されました。

大学からは学長の谷釜了正氏、学生支援センター長 伊藤直樹氏、アドミッションセンター長 荻浩三氏、学生支援センターキャリア部門 大山茂氏、震災復興支援プロジェクト 三宅良輔氏が出席され、学長からは短大の4大化・新しい魅力ある資格が取れる学部設置・スポーツ栄養学の観点からの食の改善などのお話があり、その後それぞれの立場からの取り組みについてお話がありました。また、本年は実演会の年には当たらないが、被災地の復興支援という意味でスポーツ交流と研究発表会が行われるとの報告がありました。その後、質疑応答が活発に行われ、有意義な時間を持つことができました。

代議員会については、代議員47名中4名

が役員のため43名中41名出席、2名が委任状提出されており、成立しました。議事録署名人には福岡県の藤田忠雄氏と三重県の大谷秀世氏が選出されました。平成23年度事業報告・決算報告および平成24年度事業計画・予算案全てが承認されました。

その他として九州ブロック長の長友寧雄宮崎県会長が日体大レスリング部のコーチに就任されたため、福岡県の本田和人会長が後任として推薦されました。また前同窓会会長・前理事長の塔尾武夫氏が同窓会の名誉会長に推挙され承認されました。

袴田大蔵副学長より大学でのさまざまな取り組みが報告された後、特別講演では、理事長の松浪健四郎氏から、大学・法人の経営方針の3本柱のお話がありました。1つ目は国際化を進める、2つ目は選手強化、3つ目はワンファミリー計画ということでした。

なお、詳細な議事録は各支部の同窓会事務局にあります。

同窓会における財源については、入会金

日程

6月9日(土) _____

大学説明(質疑応答を含む)

表彰式(記念撮影を含む)

学長招待懇親会

10日(日) _____

代議員会

特別講演会「体育系大学の将来」

学校法人日本体育大学理事長 松浪健四郎氏

が約850万円、就職活動助成金として大学から1,550万円(校友会発足後に同窓会入会金が委託徴収されるまでの間助成される。ただし、実費支給のため単純に収入とは扱えない)、総収入が2,865万円となっています。事業費・事務局運営費等総支出は3,375万円となり、収支は510万円の赤字となります。このような状況の同窓会の現状や母校の現状を発信せねばという思いで、今回同窓会誌を発行することにしました。今後ともご支援くださいますようお願いいたします。

支部活動報告

北海道 ブロック

【北海道支部】

広大な面積を誇る北海道では道内を14地区に分割し、それぞれの地区で総会・懇親会を開催しています。会員数は1,100名ですが大学への入学者数の減少に伴い、卒業後の同窓会への加入者数も減少しています。今年度の地区長・事務局長会議は北海道が東北ブロックから独立しどのように活動していくかという重要な会議になり、北海道を4支部(道南・道央・道北・道東)に分け、これまで道が行ってきた事業を4支部が行うことになりました。また、同窓会活動活性化に向けて、引き続き大学や同窓会本部との連携も大切にしていきます。

昨年には、北海道同窓会ホームページを作成しました。主催事業や各地区の活動、大学の情報等を掲載しています。

▶▶活動状況

①会員相互の連絡：幹事会(年間2回)他
②会員名簿および会報の発行 ③会員の福利厚生：役員懇親会・受賞者祝賀会他 ④その他：北海道就職対策直前指導講習会他
【事務局/三宅 俊範】

東北 ブロック

【青森県支部】

会員数は名簿上では500余名を数えますが、会費納入状況はこの5年間の平均が170名前後。魅力ある同窓会の第一歩は、「先生方の集まり」からの脱却と考えています。卒業生の60%以上が一般企業などに就職している現状からしても、発想の転換が必要です。

最近では時代の流れか、「日体精神」の希薄化が進んでいます。若手役員の積極的起用や、情報提供の工夫など身近な取り組みから、同窓会の実情を知ってもらう手立てを地道に粘り強く進めていきます。

▶▶活動状況

①定例総会 ②会員研修会 ③女子同窓の集い ④支部長・事務局長会議 ⑤教育実習直前指導 ⑥教育実習特別講師巡回指導 ⑦就職対策研修事業(保護者会との連携事業)
【事務局/赤石 真一】

【秋田県支部】

秋田県は会員300名が同窓会に所属、県全体で総会・懇親会を行っている他、8地区に分かれて支部活動をしています。また、在籍学生の保護者会とも連携を図っています。教育実習生の事前指導はもちろん秋田

県同窓会の力を合わせて、東日本大震災支援事業などを行っています。

▶▶活動状況(平成23年度)

①定例議員総会 ②東北地区連絡協議会
③日体秋田の会：就職対策研修会他 ④教育実習生指導：中学1名 高校7名 ⑤東日本大震災支援事業「三陸の子どもたちにTシャツを贈ろう」(P9参照) ⑥日本体育大学保護者会東北ブロック会議 ⑦女子集団行動秋田県内合宿への激励 ⑧同窓会・保護者連絡会 ⑨日本体育大学同窓会被表彰者
【事務局/高橋 史晃】

【岩手県支部】

本県同窓会は、例年2月に総会を実施しています。平成24年度は東北同窓会連絡協議会の当番県であり、10月27日、協議会と同じ日に実施することとなりました。同窓会本部、法人、大学、各県同窓会関係者が一堂に会し、情報交換、懇親会を予定しています。また、本県女子の部がスタートしました。研修会関係では、現在学校関係へ臨時採用者を対象に実施、教員採用試験に合格すべく実施しました。

同窓生の訃報です。昭和4年3月日本体育会体育学校卒業の下川原孝先輩におかれましては、東日本大震災において、釜石で被災されお亡くなりになりました。享年106歳でした。昨年2月の県同窓会には元氣なお姿で出席されました。マスターズ陸上大会では数々の世界記録を樹立、日体大同窓会会長特別表彰など数多くの栄誉に浴されました。会員一同悲嘆にくれております。
【事務局/及川 勝義】

【山形県支部】

山形県同窓会は会員580余名を数え、昨年設立50周年を迎えました。今なおこうして同窓会活動が継続されているのも、諸先輩各位のご尽力の賜物であり、深く感謝を申し上げる次第です。

12月には、これまでの歩みを振り返るとともに同窓生の一層の絆と母校の発展に寄与するために、県の役員全員が実行委員となり、記念講演・記念式典・祝賀会を3つの柱とする50周年記念事業を開催しました。記念講演の講師にはアテネオリンピック、アーチェリー競技の銀メダリストで日体大准教授の山本博先生をお招きし、県内の中高校生の皆さんも参加して、先生のお話に目を輝かせていました。式典では本県の同窓会に永年ご尽力いただいた5名の方々に感謝状を差し上げました。また、「へにばな国体」総合優勝の原動力となった日体大の現役選手および同窓生の活躍を収めたDVD「やったぜ日本体育大学」(30分)を記念品として作製し、会員に配布しました。今後も本県同窓会員の絆を大切にしたい会の発展に向けて頑張りたいと思います。

【会長／武田 允興】

【宮城県支部】

宮城県は卒業生約400名が同窓会に所属しています。県内を7つの地区に分け、それぞれに研修会や懇親会が行われています。また、競技種目および校種ごとに総会や研修会・懇親会が開催され多くの同窓生が参加しています。また、同窓会の主な活動として、学生を対象とする教育実習生の事前指導や就職対策セミナーを開催しています。

今年は、役員の改選が行われ新体制となりました。これを機に、同窓会の活動を盛り上げ、積極的に本県出身の学生支援・サポートに取り組んでいきたいと考えています。

▶▶活動状況

- ①総会 ②研修会：競技種目ごとに実施
③教育実習事前指導および就職対策セミナー ④懇親会 【事務局長／内海 渉次】

【福島県支部】

我が福島県は会員約500名が同窓会に所属しており、5地区（県北・県南・会津・いわき・相双支部）に分かれ、それぞれの地区（支部）において総会、研修会、懇親会などが活発に行われています。県全体の総会は実施せず、代議員会を設けて年1回の顔合わせを行っています。

また、教育実習生に対する特別巡回指導や就職相談会（教員採用試験対策、公務員採用試験対策、一般会社採用試験対策）なども開催しています。

▶▶活動状況

- ①総会：代議員会を開催 ②教育実習生の事前指導・特別巡回指導：適任者（教員・

OB）を指名して指導を強化 ③就職相談会 ④地区活動（支部活動）：各支部が独自の企画により研修会・就職相談会、懇親会などを開催。なお、昨年3月、東日本大震災により相双地区の多くの会員が被災した際は、全国の同窓生の皆さまから激励をいただきありがとうございました。⑤「福島県同窓会情報」の発行：年1回 ⑥その他：平成23年度には東京電力福島第一原子力発電所における放射能漏洩事故により、多くの避難者が出るなど大変な年でしたが、今年度は会員の子弟がロンドンオリンピック（競泳競技）に出場するなどの明るい話題もありました。

【事務局長／今野 金哉】



【茨城県支部】

茨城県同窓会は会員500名程度が加入しており、県全体の理事会・総会・懇親会・講演会などを開催。総会時に表彰なども実施し、会員の功績を称えています。委員会活動として、名簿・会報・研修・企業・女子の5委員会を設置、地区割りは5地区とし、地区ごとに各委員会も設置して活動しています。課題は会員の把握で、名簿委員会が苦勞しています。事務局は会費徴収諸連絡に余念がありません。会員の積極的な参加を促すため事業計画などに工夫を凝らしていきたい。

▶▶活動状況

- ①総会：日本体育大学 荻浩三准教授（アドミッションセンター長）による講演他
②研修会：23年度は女子委員会のみ実施。24年度は各委員会とも活発に活動予定
③教育実習生の指導：48名（中学14名、高校34名）。教育実習巡回指導者は中学校および高等学校の管理職経験者で実施 ④その他：県同窓会と県保護者は互いに理解を深め、相互の総会や懇親会・研修会などの機会を活用して交流を深めています。

【理事長／坂本 静】

【栃木県支部】

▶▶活動状況（平成24年度）

- ①教育実習特別講師事前打ち合わせ ②関東北信越連絡協議会出席 ③教員採用セミナー ④県保護者会へ参加 ⑤教育実習特別講師報告会 【事務局長／鈴木 義孝】

【群馬県支部】

群馬県同窓会は松本邦夫会長のもと、500名の会員が、10支部に分かれて支部総会、研修会、親睦会など活発な活動を行っています。

県全体では、27名からなる理事会を年間2回開催。女子部の活動は特に活発で懇親を深めており、各県のお手本となる活動として評価をいただいています。

また、教育実習巡回指導や就職セミナーなどを行い、学生の支援とともに大学卒業後の同窓会への加入を勧めています。会費の徴収については、平成13年度より「終身会員制度」を導入。60歳を越えた会員から3万円を預かり、半分を各支部活動、半分を県同窓会活動に当て、年間行事の充実に回っています。

▶▶活動状況

- ①県本部の活動：総会などの他に、教育実習巡回指導の研修会、就職セミナー、群馬県同窓会誌の発行（年1回）など ②各支部の活動（女子部、企業部を含む）：総会などの他に、他支部との合同研修会、懇親会など 【事務局長／清水 洋】

【埼玉県支部】

本会は、会員500名。組織は顧問3名、参与10名、会長1名、副会長5名、理事25名、監事2名、事務局3名で活動しています。全ての同窓生は把握できてはいませんが、毎年下記の活動を行っています。

▶▶活動状況

- ①総会・講演会・懇親会：年1回 ②理事会：年2回 ③就職対策事業（現役学生対象の公立学校採用試験研修会／年1回、臨任・非常勤対象研修会／年4回、教員採用試験2次対策研修会／年1回） ④教育実習巡回指導：中高75校、実習生101名、特別講師20名 ⑤会員親睦ゴルフコンペ：年1回 【事務局長／鳥山 康夫】

【千葉県支部】

千葉県同窓会は、会員が約700名以上いると思われますが、名簿が確認できるのは約500名で、その他の約200名以上については、名簿が確認できず連絡が取れない状況にあります。この状況を少しでも解消できるよう同窓会入会名簿を本部同窓会からいただくなどで会員の把握に努めています。年に1度の総会には、約30名程度の出席しかありません。来年度からは、保護者会と合同で総会・懇親会を行うことを計画し、多くの会員に出席していただけるように考えています。併せて来年度は、松浪理事長に総会で講演していただく予定です。

今年度の全国高等学校野球選手権大会千葉県大会において、姉妹校の柏日体高校が決勝まで進みましたが、惜しくも敗れ甲子園出場はなりませんでした。来年に期待します。

▶▶活動状況

（平成24年度、総会・研修会・懇親会の他に）

- ①千葉県同窓会名簿調整会 ②教員採用試験2次対策講座講師派遣（本学） ③保護者会学生就職支援研修会講師派遣など

【会長／井上 暁】

【東京都支部】

東京都同窓会では大学、保護者と協力し合って教育実習の指導と学生・卒業生のための教採支援を図り、教育支援委員会を立ち上げています。

▶▶活動状況

①教育実習の指導（春・秋学期）：250名を超える実習生に対して52名の教育現場を熟知した先生方による実習の事前・事後指導、実習期間中の訪問指導を実施。24年度も同様に継続予定です。②総会・研修会Ⅰ・懇親会：年1回開催。保護者や現役学生も含めて80名以上が参加。例年、懇親会前の研修会では講演会を開催。今年は、松浪理事長より「体育系大学の今後」というテーマでとても元気の出る良いお話をいただきました。③研修会Ⅱ・教員採用試験2次試験対策講座：東京都同窓会教育支援委員会の先生（元管理職）が模擬面接、集団討議、模擬授業などを詳細に指導。採用試験対策講座（毎日曜／6回）は40名ほど希望者があり、毎回その中の15名前後が受講。また、夏期2次試験対策（大学主催）では本会から延べ32名の講師が指導に当たりました。【事務局／金井 茂夫】



講演会にて。現役学生たちも真剣に聞き入る

【神奈川県支部】

我が神奈川県同窓会は、会員約1,000名が同窓会に所属しており、10地区に分かれ、それぞれの地区で総会・各種研修会・懇親会などが行われています。県全体でも、管理職・中堅教員研修会や全体研修会、総会、懇親会を開催し、多くの同窓生が顔を合わせます。また、「かながわ日体未来塾」と称した、採用試験対策や就職対策セミナーなども開催しています。今年度のセミナーでは、就職へ向けた神奈川県同窓会の活用、学校・企業などで求められる人材、就職に対する心構えなどの他、教員・公務員・民間会社員のOBによるパネルディスカッション「先輩たちの歩んだ道」や職種別分科会を実施しました。

▶▶活動状況

①総会：出席者約200名 ②研修会 ③かながわ日体未来塾：年2回開催（第1回／教員採用1次試験合格者を対象とした2次試験対策、第2回／学生および保護者を対象とした就職対策セミナー） ④忘年懇親会：出席者約200名 【会長／入澤 隆】

【福井県支部】

福井県は会員287名が同窓会に所属し

ています。総会は年1回、12月の第1土曜日に開催。総会の持ち方は、県内を5ブロックに分け、各ブロックが持ち回りで総会開催の準備を行っています。内容は、午前中に有志による研修会、総会、懇親会という流れです。総会には毎年60名前後の同窓生が参加しています。

また、教育実習生の指導について本県では、大学の先生による巡回指導をお願いしており、大学の先生の巡回日に合わせ、本県大学保護者と共催で情報交換会（大学の近況・本県の教員採用試験対策等）を実施しています。【事務局／坪川 敏光】

【山梨県支部】

現在、山梨県支部には約300名の会員が、県内6支部（峡北・峡西南・甲府・峡東・北都留・南都留）に所属し活動を行っています。例年11月には県全体の総会を6支部が輪番で担当して開催し、多くの同窓生が年に1度顔を合わせる場となっています。また、教育実習生の事前指導・巡回指導等も行っています。

平成20年には日本体育大学山梨県保護者会が作られ、今後は保護者とも連携を取りながら、同窓会会員の確保に努力していきたいと考えています。

しかしながら、会費や新会員の確保などさまざまな問題を抱えているのが現状であり、新しい同窓会づくりを考えなければならない時期にきていると思います。山梨県内の同窓生の皆さまの、同窓会へのご支援・ご協力を伏してお願ひする次第です。ご意見・ご要望などを事務局までお寄せいただければ幸いです。【事務局／吉成 謙】

【長野県支部】

▶▶活動状況

①長野県同窓会総会（4地区持ち回り）：出席者50名余 ②就職対策研修会（入県対策と就職対策）：採用試験合格者によるアドバイス、ジョブカフェ信州の講師による就職のアドバイスと模擬面接。学生の参加が近年減少しているため、開催時期等については保護者会を通して学生に最も郷土に戻ってきやすい時期を聞いて、実施する予定 ③役員会（3回） ④会報を発刊：同窓会名簿の発刊（隔年） ⑤ゴルフ研修会（4地区持ち回り）、日体大学長杯争奪ゴルフコンペの実施

【事務局／平井 準一郎】



【静岡県支部】

静岡県同窓会は、「元気で行こう！日体

大」を合言葉に、会員約1,500名の親睦を図ることを目的に同窓会活動を行っています。県内3地区（東部、中部、西部）を拠点に地区総会や懇親会を実施。2年に1度の県総会では、同窓生が積極的に参加できるようにスポーツイベントを共催し、多くの同窓の方に出席をしていただいています。

▶▶活動状況

①県同窓会会報「日體」の発行（年1回） ②保護者会と連携して在学生への就職研修会の実施（年1回） ③就職対策2次試験対策研修会の実施（教員採用試験1次合格者対象） ④県総会（隔年） ⑤親睦ゴルフ（エッサッサコンペ）の実施（3地区対抗） ⑥大学・全国同窓会への協力（県内への合宿、試合等への応援、補助）

【事務局／大石 俊一】

【愛知県支部】

我が愛知県同窓会は会員1,371名が所属しており、6支部に分かれて総会・研修会・懇親会などの活動を行っています。同窓会の目的でもある会員相互の資質向上と親睦を図るとともに、体育の振興と母校の発展に向けた取り組みにより組織の活性化を図っています。県全体では、定例総会をはじめ就職対策事業、一般・企業等会員の会、若手教員研修会、女性部会などの諸活動を活発に行っています。また、同窓会を身近に感じていただくためにホームページを開設し情報を提供しています。

▶▶活動状況（平成24年度）

①定例総会、懇親会 ②役員会（3回） ③支部長会（2回） ④就職対策研修会（2回） ⑤県立高校主任等研修会 ⑥教員採用2次対策研修会 【会長／猶村 七甫】

【岐阜県支部】

岐阜県は、382名が同窓会に所属しており、6支部（岐阜、西濃、東濃、中濃、飛騨、大学）で相互の親睦を図る事業を実施しています。県全体では下記の各種事業を行って、会員はもとより近県や大学本部との連携を進めています。

また、平成22年春の叙勲で荒井強平氏が瑞宝小綬章を受章されました。

▶▶活動状況

①役員会 ②総会 ③懇親会 ④保護者会総会 ⑤広報発行 ⑥近畿東海ブロック会議参加 ⑦会員名簿発行（隔年）

【会長／後藤 茂伸】



荒井氏の受章記念祝賀会にて

【滋賀県支部】

滋賀県同窓会は、橋爪建治会長を中心に年1回の総会、役員会や教員採用講習会、教員管理職研修会などの事業を行っています。また、保護者会との交流や、近畿・東海ブロック大会への参加など、他の団体との交流にも積極的に取り組んでいます。

▶▶活動状況

①総会・懇親会 ②役員会：原則2回 ③教員採用研修会：教育実習生を対象に実施 ④管理職研修会 ⑤保護者会交流
【事務局長／岸本 英幸】

【京都府支部】

京都府は南北に長いので、以前から両丹支部（府北部）を組織しており、毎年5月末に開催する総会・懇親会には多くの同窓生が毎年楽しみにし、交流を深めています。

総会は、近年参加者の固定化および減少傾向に歯止めがきかない状況が続いており、今年は総会前に講演会を開催しました。今回は、熊本県の「風の丘大野勝彦美術館」館長の「大野勝彦」さんに講演いただきました。農作業中に両腕をなくされながら、創作活動を始め、多くの出版物も発刊されている大野さんの生きざまは、若い年代にも共感を与えることから、京都府保護者会や同窓会が指導する中高生および大学生にも参加いただき、約150名の参加のもと開催できました。次年度以降も魅力的な催しを企画していきます。

また、教育実習生の事前指導については、今年度初めて特別講師を選任して実習生の指導を行いました。今後も内容を検証する中でよりよい指導が行えるようにしていきます。
【事務局長／今西 均】

【大阪府支部】

▶▶活動状況（平成23年度）

①大阪府同窓会総会・懇親会 ②近畿女子同窓会への出席 ③松浪健四郎先生 法人理事長就任祝賀会 ④近畿・東海地区ブロック会議への出席 ⑤教育実習巡回指導報告会 ⑥大相撲同窓力士 春場所激励会
【事務局長／濱田 哲也】

【奈良県支部】

▶▶活動状況

平成23年度

①定例代議員会出席 ②教育実習生巡回指導：実習生1名（次年度8名を予定） ③就職活動支援事業：課題は既卒者への支援 ④日体大奈良県保護者会就活セミナー（保護者会主催） ⑤近畿女子同窓の集い：出席者58名 ⑥奈良県支部役員会：出席者7名 ⑦近畿・東海地区ブロック会議出席：出席者5名 ⑧奈良県支部総会
平成24年度（～8月）
①世田谷キャンパス竣工記念式典出席 ②全国代表者会議出席 ③教育実習直前指

導：受講者3名 ④教育実習生巡回指導：天理高校他4校、実習生5名 ⑤近畿女子同窓の集い：出席者72名 ⑥日体大奈良県保護者会総会（保護者会主催） ⑦奈良県支部役員会：出席者9名

【会長／吉岡 幸一】

【兵庫県支部】

我が兵庫県は会員1,600余名が所属しており、10地区および大学・高校・中学校・女子部・企業部で組織しています。会費納入会員は230名前後です。

会費納入会員には「日体グッズ」を送っています。これが大変好評で今後の会費納入者が増えることにつながればと思っています。納入会員300名を目指しています。

▶▶活動状況

①総会・懇親会：同窓生としての意識の高揚をはかる ②就職対策検討会：管理職などを経験された先輩方を講師に迎える ③兵庫県同窓会と日体兵庫県保護者会との懇親会：日体大の先生にも出席いただき大学の現状、県同窓会活動や就職状況などについて意見交換 ④県同窓会伝達表彰式 ⑤実習生に対する事前指導・研究授業、事後指導：経験豊かな先輩の先生方による丁寧な指導
【事務局長／栗原 栄】



【鳥取県支部】

鳥取県支部は278名の会員があり、東部（鳥取市周辺）、中部（倉吉市周辺）、西部（米子市周辺）の3地区を拠点に総会、研修会、懇親会の活動が行われています。全県での総会、研修会、懇親会は隔年の開催となっています。

また、3地区で教育実習生を囲み、激励するとともに同窓との連携を図っており、保護者会とも連携して就職対策を共通の課題としています。

▶▶活動状況

①総会（全県） ②研修会（検討中） ③教育実習生の指導：特別講師による事前指導および巡回時における指導 ④懇親会：地区総会終了時。教育実習生を囲む会

【会長／二岡 博】

【広島県支部】

広島県同窓会は、約990名の会員で組織され、同窓会本部と連携して進める各種事業により、会員相互の親睦を図るとともに、体育・スポーツの振興に努めています。

本会には6つの支部（広島・呉・東広島・尾三・福山・三次）および3つの部会（女子部・企業人会・保護者会）が組織され、

各支部では、会員名簿の発行、支部総会および懇親会などの事業を中心として、会員の研修に努めています。また3部会においても、実習生保護者会、女子部総会、研修会および懇親会など積極的な活動が展開されており、県全体の同窓会活動の活性化につながっています。

▶▶活動状況

①総会 ②就職指導会 ③教育実習生指導訪問 ④懇親会 【事務局長／市川 哲也】

【山口県支部】

山口県には約700名の同窓生が籍を置き、現在は8支部に分かれて、それぞれの支部で総会・懇親会を行っています。また、年1回開催の県の総会では、8支部が輪番で幹事をし、会場の世話などを担当。幹事の支部のご尽力により、例年40～50名が出席しています。

▶▶活動状況

①会報「絆」の発行：事業報告などの他、頑張っている同窓の姿を紹介 ②山口県同窓会総会の開催 ③研修会（チャリティーゴルフ）：参加費の一部などをチャリティー募金とし、県の体育協会に賛助会費として納める ④就職対策研修：10名以上が参加 ⑤教育実習生の巡回指導：中・高で退職された6名の同窓生に依頼
【事務局長／鈴木 三郎】

【香川県支部】

例年同窓会活動として、本県では3地区（東讃・高松、中讃、西讃）に分かれ、各地区で総会・研修会などが行われ、県全体でも研修会や総会・懇親会が行われています。また、保護者会へ出席して就職活動についての状況報告、保護者会との意見交換を行うとともに、本県の課題である同窓会員の入会についても協力を求めました。

▶▶活動状況

①県全体総会（隔年） ②各支部総会 ③役員会 ④教育実習生激励訪問（関係学校） ⑤中四国連絡協議会（中国・四国地区各県持ち回り） ⑥卒業生の移動調査 ⑦保護者会との連絡会
【会長／松原 真一】

【徳島県支部】

私も徳島県支部は会員229名が所属し、県全体として活動しています。主な活動としては各種研修会や総会・懇親会を開催し、同窓生が親睦をはかっています。特に企業人会や女子部会の活性化、さらに若年層の同窓会活動への参加を呼び掛けています。近年、不景気な経済状況を反映してか、本県では日体大への入学者が減少しているため、同窓会としては何とかして母校への進学をと力を注いでいます。今後、教育実習生の事前指導や教員採用審査の対策、さらには卒業後徳島県への就職が実現できるように力を注ぎたいと考えています。

▶▶活動状況

- ①総会 ②各種研修会（企業人会、女子部会、管理職研修会、就職対策研修会など）
③教育実習生の事前・事後指導 ④懇親会
⑤保護者会との情報交換会

【会長／近藤 芳夫】

【愛媛県支部】

愛媛県は約400名が同窓会に所属しており、毎年松山市で総会・懇親会を実施しています。また、教育実習生や過年度卒業生に対して教員採用試験の事前勉強会を実施しています。

▶▶活動状況

- ①総会・懇親会（参加69名）②研修会：在校生、過年度卒業生に対して教員採用試験の学習会を実施 ③保護者会総会・懇親会に参加

【事務局／安川 孝司】



支部総会にて

【高知県支部】

我が高知県は会員386名が同窓会に所属しており、県全体で総会・研修会・懇親会・親睦ゴルフなどが行われています。また、教育実習生の事前指導や教員採用選考審査の傾向と対策セミナーなども開催しています。

▶▶活動状況

- ①総会 ②懇親会 ③研修会：教員研修（同窓会の活性化を図るために専門種目別に輪番制で講演形式の研修を実施）、就職対策研修（2回、公立学校教員採用選考審査の傾向と対策について学習会を実施）④教育実習生の事前指導：6名。巡回指導は会長が指導を担当 ⑤親睦ゴルフ

【事務局／田所 和仁】



【福岡県支部】

我が福岡県は、「再生」同窓意識・絆・「復活」日体魂・母校愛のスローガンを掲げ、平成22年度から同窓意識の希薄化と各支部（地区）活動の衰退、母校進学者の減少と教員採用者数の激減など課題の打開に向けて取り組んでいます（P8参照）。

今後、新たに設置した絆委員会により、再生・復活に向けた活性化策を適宜実行していくとともに、業種別名簿にも適用でき

る県統一名簿を作成していく予定です。

▶▶活動状況

- ①県総会および懇親会（約200名参加）、4支部総会および懇親会（計約300名参加）
②県合同研修（講演）会 ③教員採用試験対策「グループ體窓」（2回、22名参加）
④学校管理職者研修会「校友会」（会員数約100名、毎年約30名参加）⑤女子部会（3年に1度、1泊2日）⑥企業人部会（1回）
⑦県役員会（2回、臨時1回）⑧絆委員会（2回）
《組織》登録会員500名（同窓数約1,500名）、4地区（中部、北部、南部、筑豊）

【会長／本田 和人】

【長崎県支部】

▶▶活動状況

- ①地区総会：長崎地区、佐世保地区、中地区の3地区により毎年開催。会費（県・地区）の徴収も各地区が行います。県会費年額1,000円、地区会費年額1,000円。各地区は会員数の80%×1,000円を県同窓会に納入します。②県総会・研修会・懇親会：3地区を巡回して隔年開催しています。平成17年度より、総会担当を部活動単位で担当し、県同窓会と連携しながら開催。顕著な活動実績を有する同窓生を招聘して研修会を実施しています。
・平成21年度 柔道・ウェイト部（体操競技内村航平選手の父・内村和久氏）
・平成23年度 バレーボール部（日体大教授 森田淳悟先生）

【事務局／緒方 広道】

【大分県支部】

▶▶活動状況（平成24年度）

- ①総会・懇親会 ②役員会 ③教育実習事前指導・巡回指導 ④保護者会出席 ⑤九州地区連絡協議会出席 ⑥平成24年度全国代議員会出席 ⑦全国同窓会事務局長会議出席

【事務局／杉原 勉】

【熊本県支部】

熊本県は約800名の会員が同窓会に所属しており、11の支部に分かれてそれぞれ活動しています。各支部において総会、退職を祝う会、ゴルフコンペなども行われ、県全体では2年に1回の大同窓会、教育実習激励会、現役学生の保護者会、また学生や保護者に向けての採用試験対策や企業人からの講話などを行っています。

教育実習生に対しては、校長経験者4名が事前指導や巡回指導を手厚く行っています。昨年度は「日本体育大学体育研究発表実演会」が熊本県立体育館で行われ、多くの同窓生や一般の方など約4,000人が観覧されました。

また、平成23年秋の叙勲で熊本陸上競技協会長の兼本哲也氏が旭日双光章、有明高等学校長の片山盛雄氏が瑞宝小綬章を受章されました。【事務局／上村 秀久】

【宮崎県支部】

我が宮崎県は平成23年度現在、421名が同窓会に所属しており、年に1回宮崎市で総会・情報交換会・懇親会などを行っています。また、保護者会・懇親会も行っており、大学の現状や在学生の現状などさまざまな情報交換の場となっています。

▶▶活動状況

- ①総会 ②情報交換会 ③保護者会 ④教育実習生の激励会および特別講師による事前指導 ⑤懇親会

【事務局／大浦 慎一】



懇親会の最後には全員で寮歌・校歌を熱唱

【鹿児島県支部】

【第50回日本体育大学体育研究発表実演会鹿児島県大会開催】

本県においては、19年ぶり3回目の開催となった実演会が、平成23年12月8日、鹿児島アリーナに約4,000人の観衆を集めて盛大に開催されました。次から次へと繰り広げられた2時間の演技に観客の方々も最後まで心躍らせながら感動のひとつきを過ごせたと思います。一段と進化した日体大生の素晴らしい演技を通じて、体育・スポーツの真髄とスポーツの楽しさや喜び、元気、勇気、希望を届けることができました。今回、運営に当たった本県同窓会も、この実演会を通じて母校日体大との絆と誇り、本県同窓会員の絆をさらに深めることができました。

【貝志堅幸司先生の講演会を開催（県同窓会総会）】

平成24年7月7日、県同窓会総会を開催。総会終了後には、貝志堅幸司先生の講演会「私とオリンピック～選手として・指導者として～」が行われました。少年時代からの「夢」実現の話、現役時代に大きなけがをしながらもそれを克服していったことなど、ユーモアを交えながら大変意義深いお話をいただきました。懇親会後には、貝志堅先生も加わり、力強いエッサツサが行われました。

【事務局／中禮 雅治】



懇親会後、貝志堅先生も加わったエッサツサ

平成25年度入学試験について

アドミッションセンター長 荻 浩三

受験者層、受験機会をさらに拡充

近年の総合大学を中心とした体育・スポーツ系学部等の新增設と相まって、受験生の間には「日体大＝トップアスリートだけが入学できる大学」という大きな誤解が生じています。こうした状況を目の当たりにし、体育学部では、平成24年度入試より「地域ブロックAO入試」「指定校推薦（全国指定校）」「一般入試B方式」を実施し、さらには平成25年度入試から「一般推薦」「外国人留学生入試」を新たに導入しました。また、プロスポーツ選手のセカンドキャリアを支援する目的でスタートした「リカレント入試」も2年目を迎え、受験者層、受験機会の拡充を一層進めているところです。

多様な尺度の導入により幅広く人材を確保

こうした入試制度の多様化により、現在本学では、スポーツの実績に秀でる者（トップアスリートAO入試、スポーツ推薦）はもとより将来に明確なビジョンを持ち、充実した高校生活を過ごしている者（各学科AO入試、地域ブロックAO入試、指定校推薦、一般推薦）や基礎学力・基礎運動能力をしっかりと備えている者（一般入試A・B方式）など、多様な尺度（評価のポイント）を入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）として掲げています。これにより、受験機会も年内に2回（AO入試あるいは推薦入試）、年明けに3回（一般入試A方式＜①体育学科と②他学科の併願

＞および③B方式）と増え、最大で5回チャレンジできるよう設定されています。加えて、平成26年度入試より体育学部一般入試A・B方式では、学力をより重視する選考方法に改めることとし、各々の入試区分で求める人物像をさらに明確にしていきます。国際的に活躍するトップアスリートや教育の現場で子どもたちと向き合う教師のみならず、世界を駆け巡るビジネスマンや最先端のスポーツ科学をリードする研究者など将来、多分野で活躍しうる人材をより多く迎え入れたいと願っています。

支部総会にご説明に伺います

新しい入試制度は、こうした期待を重ね合わせて検討されたものです。この思いを直接同窓の皆さまにお伝えできれば幸いです。各都道府県で開催される支部総会にてお時間を頂けるようであれば伺いたいと思います。お手数ですがアドミッションセンターまでご連絡ください。全国同窓の皆さまへ最新の入試情報を発信することも私たちの重要なミッションです。

※平成25年4月より本学に児童スポーツ教育学部（定員：200名）が開設されることとなりました。学部の詳細（学修内容、取得資格、入学試験等）については、本学ホームページにてご確認ください。なお、これに伴い本学女子短期大学部（体育科・幼児教育保育科）は今年度より学生募集を行いません。



学校法人 日本体育大学
理事長 松浪 健四郎

「日体大」を揮毫させていただく光栄にあずかった。日体大は、体育・スポーツの指導者、研究者を育成する日本を代表する単科大学として歴史を積み重ねてきた。

そのキャンパスで学んだ同窓は、エッサツサ、荏原体育を無心で演じてきた同志である。理不尽さに耐えつつ、常に夢を描き、犠牲的精神を発揮する習性を身につけた異色な人類。

それが「日体大」だと私は実感している。

この人類は、同窓の絆を財産以上に大切にしている習性をも身にまとう。われらの誇りである。日体大は小さいかもしれぬが、その存在感は計れぬほど大きい。

編集後記

6月に念願ではあった同窓会誌の作成が決まり、総会で報告し、11月発行を目途に7月7日第1回の打ち合わせがあり、バタバタと進めてきました。慣れない作業で周りにいろいろとご迷惑を掛

けてしまいました。また、支部の活動報告も多く寄稿していただき、感謝申し上げます。増ページさせて対応しましたが十分に掲載できず、こちらで編集をさせていただきました事をお詫び申し上げます。何とか発行にこぎ着けました。多くの方にただ感謝感謝です。これからもご協力をお願いします。（堀川政子）

なつかしい母校のグッズをお手元に、いかがですか？

同窓会グッズ

※価格はすべて税込です



[チョコ]

[ゴールド]

- ① テディベア(チョコ/ゴールド) Lサイズ(約25cm) 各2,500円
② テディベア(チョコ/ゴールド) マスコットサイズ(約9cm) 各1,000円



⑤ ボールペン付き付箋セット 300円



⑥ ゴルフマーカー 1,500円



⑧ ボールペン(4色+シャープペン) 500円



⑨ マフラータオル(約115cm×20cm) 500円



③ エッサツサくんストラップ (オレンジ/ブルー) 各500円



④ クッキー(9枚箱入り) 600円



⑦ スポーツタオル(約105cm×34cm) 1,000円



⑩ マグカップ 1,000円

購入方法

同窓会グッズの購入を希望される方は、FAX(ホームページに書式もあり)あるいはハガキに下記必要事項①～⑥を明記して、同窓会事務局までお申し込みください。

※商品の仕様・デザインは都合により変更することがありますので、ホームページにてご確認ください。また売り切れの際は、ご容赦ください。

●必要事項

- ①お名前 ②ご自宅住所 ③電話番号(日中) ④商品番号と商品名(色)
⑤個数 ⑥合計金額

※ご自宅以外への発送を希望される場合は、**発送先ご住所・電話番号**も併せてご記入ください。

●送料について

商品は、着払いの宅配便にて発送させていただきますので、送料をご負担ください。なお、商品によってはメール便にて発送することも可能です。

●代金のお支払いについて

代金は先払いとなります。FAXあるいはハガキにてお申し込み後、「みずほ銀行」または「ゆうちょ銀行」の下記口座へお振り込みください。入金確認後、2週間以内に商品を発送させていただきます。なお振込手数料については、ご負担ください。

みずほ銀行 世田谷支店 普通8102510 日本体育大学同窓会 碓井 進
ゆうちょ銀行

振替貯金(振替口座) 00110-5-604219 日本体育大学同窓会

※ゆうちょ銀行の場合、入金確認に数日(3日～5日程度)かかりますので、ご了承ください。

【お申し込み・お問い合わせ先】

日本体育大学同窓会

〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1 日本体育大学内

電話: 03-3704-0266 FAX: 03-3704-1817

URL: <http://www.nittai-club.com/>

【表紙写真】本年4月に竣工した東京・世田谷キャンパスには、名だたる彫刻家の大ブロンズ像が各所に設置され、芸術大学の趣を見せている。右上「EOS」の像(本館エントランスホール)と左下「太古の血潮」像(スポーツ棟エントランスホール)は、いずれも文化勲章を受賞された中村晋也氏の作品。そして左上は、昭和29年以來ずっと日體人を見守り続けてきた「チャンス」の像(前庭中央)。